

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3171100096
法人名	株式会社 幸風
事業所名	グループホーム 幸風
訪問調査日	平成19年 8月 1日
評価確定日	平成19年 8月29日
評価機関名	特定非営利活動法人鳥取社会福祉評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3171100096		
法人名	株式会社 幸 風		
事業所名	グループホーム 幸 風		
所在地 (電話番号)	鳥取県岩美郡岩美町浦富434-25 (電 話)0857-37-5226		
評価機関名	特定非営利活動法人 鳥取社会福祉評価機構		
所在地	鳥取市湖山町北2丁目116番地		
訪問調査日	平成19年 8月 1日	評価確定日	平成19年8月29日

## 【情報提供票より】(19年 7月18日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成16年11月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15.6 人

### (2)建物概要

建物形態	単 独	新 築
建物構造	木 造 造り	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4)利用者の概要(7月18日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩美病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浦富海岸より少し山手に立地し、小高い里山に囲まれた閑静な環境にある開設から2年9ヶ月の新しい2ユニットのグループホームである。管理者は社会福祉士、介護支援専門員等々の資格を持ち、介護経験も12年6ヶ月と豊富である。開設以来職員の移動はほとんどなく、なじみの顔ぶれで日々のケアを行なっている。職員は全体に若い皆明るく、利用者にも介護の基本であるゆっくり、ゆったりを心がけており、食事時にもそれぞれのペースに合わせた、あせらず、ゆったりとした寄り添う支援を行なっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 年に一回の利用者の定期健康診断の実施の項目については、持病があり定期的受診している利用者以外は定期的受診できるように支援している。又運営推進会議への取り組みも定期的開催されている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価に対する取り組みは職員が忙しかったこともあり、職員全員ではなく管理者及びその代行者で作成されている。職員のモラル、モチベーションを向上させるためにも全員での取り組みが必要である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では職員の名札の問題からボランティアの受け入れの問題、火災や災害時の協力体制及び施設見学等々多岐にわたる意見が出ており、施設側としては誠意を持って検討し、すぐに出来る事は対応し、又時間のかかる事柄については検討事項として次回までに回答を準備して改善を図るようにしている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ご家族からの苦情はなく、相談や意見もあり言われていない。ご家族の来訪時や日々の電話でのコミュニケーション、毎月のコメントを書いたたり等でご家族は本人の様子理解されているが、意見等があった場合は職員全員で話し合っ解決するようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の暮らしの中では散歩や買い物、地域の行事への参加をとおして地域との交流を図るようにしている。運営推進会議のなかでも地域の代表の方をお願いしてもっと地域との交流が図れるように取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はグループホーム独自の理念をつくりあげており、理念の中には地域との交流も取り入れている。理念はスタッフ会議では必ず話し合っている。又日々の職員との接触の中でも折に触れて話しており、地域密着の理念は徹底されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関とスタッフルームに掲示しており、忙しいときでも利用者には絶対急かさずにのんびりと相手の立場、相手のペースに合ったケアをしている。それぞれの利用者に合わせた早目の声かけを行い、話をよく聞いて、否定ではなく説得する事を心がけたケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームとして地元浦富自治会に加入しており、地元の祭り、納涼祭等の行事にも積極的に参加している。地元の自治会の方々との交流もすすめている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は全職員が理解しており、前回の改善点も改善計画を立案して改善に結びつくように実施されている。自己評価は管理者及び代行者で作成されており、全員での作成が行なわれていない。	○	自己評価は職員全員で行うことが必要で、自己評価の項目に目をとおす事を通じて、職員の方々もより日々の業務の中での取り組みを再確認することが出来ると思う。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的実施されている。参加者も利用者、利用者ご家族、地域代表、行政等々であり、話し合いの中で色々な意見がかなり出されている。又その意見を参考にして改善を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外の場合では市町村担当者との接触はなく、特に相談する事項、問題点等もなく市町村担当者との連携はあまり図られていない。	○	運営推進会議以外の場合でも市町村担当者と連絡を取り、絶えず情報を提供し、相互のコミュニケーションを十分に取っていくことが必要である。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶりや健康状態等について毎月の報告時には必ずコメントを書いた手紙を同封し、病院での受診状況や日常の様子を写真を同封することにより、ご家族に伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が苦情を言っても不利にならないことの明示があり、家族会や日々の来訪時でのコミュニケーションを充分に取って相談や苦情が言いやすい雰囲気を作っており、ご家族の意見も日常のケアに取り入れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立間もないこともあり、職員の移動は少なく利用者にダメージを与えたケースはなかった。今後職員の移動、退職等がある場合は少なくとも、1ヶ月以上の期間を引き継ぎ期間として、利用者にダメージを与えないように考えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は経験年数に応じた研修を受講する体制になっており、研修結果はスタッフ会議で報告、発表している。新人の場合はベテランとの組み合わせを行なって現場でのマンツーマンの研修を約1ヶ月間実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開所時には他の施設への研修等での交流はあったが同業者で作る協会へは加盟もしていないため、他のグループホームとの交流はあるが、研修等のはっきりした目的を持った形での交流はあまり活発には行なわれていない。	○	他のグループホームとの相互研修や交流を行うことにより、職員の意識の向上、ケア技術の向上に結びつき、そのことが利用者及びご家族の満足や安心に繋がるため、是非実施してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあった場合は管理者が自宅に伺って本人やご家族と十分に話し合いを重ねて、施設見学もしていただきなじみの関係を作るようにしている。又デイサービスも実施しているのでそちらの利用もすすめて施設に少しずつなじんでいただく工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の趣味やこだわり等を理解してそれぞれの分野でそれぞれが能力を発揮して生き生きとできるように支援している。利用者から職員にありがとうや大変だねと言葉をかけてもらうこともあり、お互いに支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族にどのような生活を送りたいのかとの希望を時間をかけて聞き出して、利用者一人ひとりの思いの把握に努めており、趣味への支援や食事の準備など本人の希望や意向を尊重した取り組みをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人やご家族からの意見や医師の意見を取り入れ、機能訓練等を実施する具体的な介護計画は作成され、担当職員を中心に全職員でケアに取り組んでおり、利用者が快適な生活を送れるようにしている。	○	介護計画書にはご家族の意見も多少記入があるが、介護計画書にご家族の署名捺印がなく、本人やご家族の意思が本当に反映されているか疑問な点もあり、ご家族にも十分に説明する必要がある。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度の見直しは行われており、職員全体で話し合って計画を作成している。又医師の指示がある場合は、重度化しないように予防的な内容になるようにしており、絶えず現状に即した介護計画を作成するようにしている。	○	利用者やご家族とのコミュニケーションの中で利用者やご家族の意見を現在以上に取り入れた介護計画を月に一回作成することが必要である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設側の自主サービスとして、利用者の病院等への送迎はすべて施設側が行っており、又同じ施設でデイサービスも行なっているためデイサービス利用者とのコミュニケーションも図って、施設の多機能性を活かした柔軟な支援を行なっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や提携医療機関で受診を行っており、受診時には「協力病院等受診状況票」を作成しており、医師への日々の状況の伝達及び医師からの診断状況の報告等、相互の連携のツールを活かしており、ご家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアを行なわない方針をご家族に説明し、重度化した場合や、終末期のあり方について医療機関と連携して利用者やご家族に段階的に繰り返し相談しながら慎重に対応するよう職員間でも意思の疎通、共有ができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの性格を把握し、プライドを傷つけないような言葉かけや対応に心がけている。個人情報に関する書類やデータ等は持ち出し厳禁になっており、管理も適切に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者ごとに起床時間やトイレの時間も異なるので、一人ひとりの利用者のペースに合わせた支援を行っており、利用者の希望や出来事を連絡ノートに記入して全職員が情報の共有を図って見守りながら支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際にはスタッフが同席して同じものを食べながら楽しく食事が出来るように声をかけて、ペースの遅い人には寄り添うように介助しており、それぞれの力量やペースに応じた支援をさりげなく行なっている。畑で取れた野菜を料理に使うことで話題や楽しみの幅を広げている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を考慮しながら基本的には毎日の入浴を楽しめる職員体制になっている。入浴を拒む人には人を替えたり、時間を変えたりしながらできるだけ毎日の入浴ができるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握して、花の水やり、畑仕事、台所仕事、洗濯物たたみ等々できることやしたい事を支援しながら、持てる力を発揮できるように支援し、又カラオケボックスに行き歌う楽しみや気分転換の支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外気に触れる機会を大切にして花見、出会いの森、砂丘、近所の海岸等へお弁当を持って行ったりして気分転換やストレス発散を図っており、天気の良い日には必ずどこかにでかけて、五感に対する刺激を得られるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上の理由から施錠しているが日中は玄関扉から自由に出入りでき、利用者の閉塞感の予防に繋がっている。ユニット間での移動やデイサービスへの移動も自由で、管理者及び職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解して、実行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年一回定期的に行なわれており、非常災害時のマニュアルも揃っている。が、地域住民が参加した避難訓練は行なわれておらず、地域に対して呼びかけも行っていない。	○	避難訓練には地域住民の参加を呼びかけ、協働して訓練を行なう必要がある。又非常災害時の備品、非常食の備蓄も必要と考える。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや摂取量を考慮しながら利用者とともに献立を決めており、一人ひとりの食事量や水分摂取量は毎日記録されている。医師の指示がある利用者や飲み込みが悪くなった利用者には刻み食等で食べやすいように工夫して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体的に清潔感があり、居間にはたたみの間や椅子、テーブルがあり、一人になったり、又利用者同士で話したりと談笑できるスペースが確保され、壁には行事等の利用者の思い出の写真が掲示されており、又畑や花壇もあり、それぞれが自由に過ごせる空間作りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、冷蔵庫、使い慣れた家具等が持ち込まれ、利用者が安心して過ごせるように配慮している。利用者それぞれの居室にはその人の生活暦が伝わってくるような写真や品物が持ち込まれており、個性を大切に本人にとって居心地が良いと思われる空間作りになっている。		